



「時は元禄15年、師走半ばの14日、江戸の夜風を震わせて、響くは山鹿流（やまがりゅう）の陣太鼓・・・」の名調子を聞けば、赤穂浪士討入りの場面が目には浮かびます。

12月14日は恒例の山科義士祭ですが、皆さんはこの日開催される「山科こども歌舞伎」をご存じでしょうか。忠臣蔵を演じる子どもたちの名演技は感動ものです。

それでは、歌舞伎や文楽で不朽の名作とされる『仮名手本忠臣蔵』より、“山科閑居の段”をご紹介します。

* 山科閑居の段 *

大石内蔵助は息子の主税（ちから）とともに、主君・浅野内匠頭の無念を晴らそうと、ひそかに山科の閑居で、吉良上野介邸討入の準備をしていた。



主税は小浪（こなみ）といいなずけであったが、浅野家がお取り潰しになったことから、二人の間はすっかり疎遠になっていた。主税と添い遂げられないことを悲しむ娘を見て、母の戸無瀬（となせ）は、この上は改めて、娘の小浪を主税の嫁にしてもらおうと、供も連れずに母娘ふたりで、内蔵助たちのいる山科へと向った。

内蔵助と主税は不在。内蔵助の妻お石は、結婚の申し出を拒絶する。というのも、かつて殿中松の廊下で浅野内匠頭が吉良上野介に切りつけたとき、小浪の父の本蔵（ほんぞう）がこれを制止し、とどめを刺すことができなかつたからである。内蔵助たちは本蔵を恨みに思っていた。

「本蔵の首と引き換えなら結婚を許す」というお石の言葉に、娘の幸せを叶えたい本蔵は自ら主税の槍に突かれて死ぬ。息絶える間際に、本蔵は婿への引出物として、吉良邸の絵図面を内蔵助に手渡す。この絵図面により討ち入りを果たすのである。

【仮名手本忠臣蔵】

元禄時代に起こった赤穂浪士47人による仇討ちを劇化したもの。47人をイロハ仮名47文字にたとえ、武士の「手本」とした題名。



図書館からのお知らせ

- ★12月1日（金）大人のための整体体操
午前11時～ 講師：もりもとまき氏
- ★12月7日（木）特別講演会
「陰陽師・安倍晴明と土御門家」
午後6時～ 講師：吉平裕美氏
（京都歴史研究会代表）
- ★12月11日（月）オンライン・データベース講習会
午前11時～ 対象：シニアの方 事前申込
- ★12月16日（土）ハンドベルコンサート
午前11時～ 出演：ティンカーベルのみなさん

定例行事 12月予定

- ☆12月4日（月）赤ちゃんの会～だっこくらぶ～
午前11時～ 図書館職員
- ☆12月16日（土）Head Shouldersで遊ぼう！
午後2時30分～ヒッポファミリークラブ
- ☆12月18日（月）赤ちゃんの会～トコトコくらぶ
午前11時～ 子うま文庫のみなさん
- ☆12月23日（土）おたのしみ会～手話で歌おう！
午前11時～ 子育てボランティア・さくら会のみなさん

新着図書紹介

- ・「正しい本の読み方」橋爪大三郎/著
- ・「戦国おもてなし時代」金子拓/著
- ・「自分で育てて、食べる果樹100」船越亮二/監修
- ・「西郷の首」伊東潤/著
- ・「夫の後始末」曾野綾子/著

今月の展示

- ◆「年越し準備」・・・早いもので今年もあとわずか！
一年を振り返り、新年を迎える準備をしましょう！

コーナー紹介

- ◇「シニアコーナー」・・・人間は老いるもの！たった一度きりの自分の人生を大切に、有意義にそして前向きに！シニアの支援の本を集めています。
別置記号「シニア」
背表紙シール→

シニア